

夏休み前の全校集会 あいさつ

皆さんこんにちは。

今年度は3月から続いた臨時休業から始まりました。5月にはオンライン授業を実施しましたが、授業日数を確保するために、土曜日や夏休みを授業日に変更せざる終えなくなり、例年に比べて約10日遅い集会になりました。

1・2年生は明日から、3年生は来週末から夏休みに入ります。かつて経験したことのない短い夏休みです。皆さん疲れは出ていませんか。身体と心のバランスはとれていますか。身体と心は互いが関係しあって、いいコンディションを保っています。バランスが崩れると、勉強だけでなく部活動や学校行事、家庭での生活すべてに影響をあたえます。そういった意味でも、睡眠や食事など規則正しい生活を夏休みに入ってからでも続けるよう心がけてください。

今日は「本当の強さ」について話をします。6月下旬から3年生の授業を見学しました。真剣な眼差しで授業に取り組む皆さんの姿は私のところを穏やかにさせてくれました。そんな中、気になった授業がありました。現代文の授業です。教材は、鷲田清一さんの「こころは見える？」です。皆さん、心は見えると思いますか。例えば、友達に「おはよう」と声をかけても、無視されると「何か怒っているのかな」と感じたり、いつもより明るい声で返事が返ってきたら、「何かいいことがあったのかな」と感じるのが有りませんか。また、ドラマや映画などで役者さんの表情や声の調子、態度、視線などで、「あの人はこう考えているのではないか」ということを推測し、その悲しみや喜びを感じ取って、心を揺さぶられることが有りませんか。日常生活でもよくありますよね。私たちは他者の「こころ」を「見て」いるのです。すなわち、「こころ」は「見える」のです。

では、落ち込んだり、弱っている友人のこころが見えたらどうしますか。ここぞとばかりにさらに追い打ちをかけますか。さすがに皆さんの中に、そんなことをする人はいないと思います。そんな時こそ悩みや思いに共感し、寄り添う優しさが大切です。ある担任がトルストイの名言を学級通信に載せていました。「他人の不幸の上に自分の幸福をおいてはならない。(他人の幸福の中にこそ、自分の幸福もあるのだ。)」まさに、その通りです。

本当に強い人は、他人を思いやれる優しい人です。太くて立派な竹でも、乾燥して硬くなれば、強風で「ポキッ」と折れることもあります。しかし、水分を十分吸収した潤いのある竹は、折れそうで折れずにしなって強風を交わすことが出来ます。この「しなる」強さが本当の強さだと私は思います。

今はコロナ禍での「新しい生活様式」に沿った行動が必要とされています。皆さんはいつも以上にストレスを感じる場面に出くわすと思います。

そんな時は、身体だけでなく、こころを潤わせて「しなる」強さで風を交わす如くサラッとかわしましょう！ 泉陽生なら出来るはずです。

以上で、私の話を終わります。